

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立松山中央高等学校

学校番号 ( 23 )

評価実施日		令和6年2月26日(月)	
	氏名	所属等	備考
委員	宮岡 博	県立学校元校長	
	松岡 啓二	松山市立南中学校教頭	
	池田 和広	愛媛県立松山中央高等学校教育後援会長	
	光田 秀之	愛媛県立松山中央高等学校PTA会長	
	二宮 紀	愛媛県立松山中央高等学校同窓会役員	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に目標を定め、学習の必要性や学習の習慣等積み重ねが重要であることを理解させて実行する。</li> <li>・全体的に各教科とも授業についての評価は高いものの、予習・復習の評価が低い傾向が見られる。予習・復習を含む家庭学習の仕方についての指導を引き続き行う必要がある。</li> <li>・レシテーションコンテストでは素晴らしい発表があった。英検の指導は続けてもらいたい。特色を出して、英語教育に力を入れてもらいたい。</li> </ul> <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会では生徒が主体的に参加しており、自然な笑顔が多く見られた。大人びた冷めた感じもなく、素直に成長していると感じた。</li> <li>・成果に捉われるのではなく、今のまま地道に取り組んでほしい。社会の変化により、様々な価値観や個々の意識が多様化しているが、社会の基本は能力より人間力が重要であることを言い続けて指導してほしい。</li> <li>・交通安全について、対策強化をすべきである。外灯の設置についても対応してほしい。</li> </ul> <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望の多様性も見られると思うが、4年制大学への進学以外の進路についても個に応じた対応をお願いしたい。</li> <li>・特色ある学校づくりから、中央高校として独自の在り方が必要である。もっとアピールできる学校の取組が必要となっている。</li> <li>・グローバルの時代、学力だけでなく個性磨きも大切である。様々な夢に挑戦する意識を持たせてほしい。</li> </ul> <p>(4) 業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の中で、教員の意識改革及びグローバルな世界観を意識してほしい。教員の生活環境の改善が一番に行う必要性を感じる。</li> <li>・教師の余裕が、子どもたちへの夢づくりの素である。教員の笑顔がない教育現場は、子どもたちの笑顔も夢も築くことができない。先生と呼ばれるためには教師の心の余裕から生まれる。</li> </ul> <p>2 重点目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の重点目標が教職員に浸透しており、日々の教育実践につながっていると感じている。</li> <li>・教師・生徒が同じ目線で目標を意識できるようにしてほしい。</li> </ul> <p>3 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の資料が大変詳細であり、細かく分析されている。ホームページは更新の頻度が高く、内容も充実している。</li> <li>・情報発信はスピードが大事。</li> <li>・学校評価は保護者と生徒にも分かりやすくしてほしい。</li> </ul> <p>4 学校運営への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの行事があり、開かれた学校づくりが進められていると感じている。</li> <li>・様々な価値意識があるが、学校の方向性は松山中央高校のカラーで進める。</li> <li>・個性のある学校には夢が育つ、大学受験の成績だけではない学校づくりを進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末の効果的な活用法、特に予習・復習を目的とした活用法を研究し、生徒の学習へのモチベーションの向上と学習事項の定着につなげたい。</li> <li>・新教育課程のもと、3年間を見通した学習活動が行えるよう、教科や学年で計画的に議論していく。</li> <li>・英語教育については、伝統のレシテーションコンテストを今後も続けていきたい。それに伴って、英語力を向上させる指導の工夫に努めていきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や中央祭などの様々な学校行事において、生徒一人一人が主体的に取り組める場を多く設けることで、より多くの生徒が達成感を感じられる学校行事を目指していく。</li> <li>・規範意識を育てる生徒指導において、成果だけでなく人間力の育成にも焦点をあて、個々の意識や多様性に対応するための活動を取り入れる。</li> <li>・交通安全対策として、生徒と保護者や地域の関係者と連携して、生徒の安全意識を高める取り組みを行うとともに、事故が多い場所や危険個所に優先的に対応する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談等を通じて、生徒一人一人の進路希望の把握を丁寧に行い、きめ細やかな進路指導を心掛ける。</li> <li>・英語系コースや医療看護系コースの特徴を生かした、進路実現に向けた体験的な機会を増やしていく。</li> <li>・生徒の多岐にわたる進路希望に対応できるように、個別指導を行っていく。小論文や面接指導は学年の枠を越え、全職員で対応できるようにしている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、業務の改善・精選を推進し、教員が生徒と向き合う時間や教材研究の時間を確保する。</li> <li>・教員の主体性が発揮できるような取組を通して、教員一人一人が自身の教育活動をデザインし、スキルアップを考えるような環境づくりを図る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「面倒見の良い教職員集団」とは具体的にどのような集団なのか、生徒の変化も考慮しながら教員間での共通理解を怠らないようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーディーな情報発信ができるように努めていく。</li> <li>・分かりやすい評価項目を考えるとともに、公表についても考えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が、スクラップ&amp;ビルドの好機と考えて、学校運営にもチャレンジ精神を發揮する。原点を忘れず、バランスのよい教育活動をめざす。</li> <li>・生徒一人一人をしっかり見つめ、個性を重視した指導を心掛けていく。</li> </ul>